



こそだて通信

かしのき保育園 2010年度 No.3

==導くこと==

前回のお便りでは、お子さんと向き合うことの大切さをお伝えしました。お子さんを尊重して、気持ちを聞いてあげたり、お子さんの『～したい、してほしい』という思いを叶えてあげることが、自分を認めてくれた、受けとめてくれた、という安心感を抱ける、かけがえのない経験です。

では、子どもを受け入れ、尊重するだけで日々過ごしていけるかというと、そんなことはありませんよね。

朝、慌しい時間にいつまでも気持ちを聞いているわけにはいきませんし、食べたがっているからとお菓子ばかり食べさせるわけにもいきません。「着させてー。」とお願いされても、「やっでござん」と一声かけて手助けすることもあるでしょう。

子どもの思いは大切ですが、だからといって子どもと異なる親の思いを示してはいけない、ということではありません。親だって一人の人間ですから、「こうなってほしい」という願いを持ち、「これは人生において大事だ」と思う事を伝えることは、もうひとつの子どもに向き合う姿ではないでしょうか。

その姿勢はお子さんの社会で生きる力にもつながっていくのでしょう。

子どもは経験も知識も大人に比べて格段に少ないですから、大人と同じような判断や、行動を任せるのは荷が重すぎる場合が多くあるように思います。「どうしたい？」ではなく、信頼できる大人に「今どうすべきか」という道を示してもらうことで、自分のわがままを聞いてほしいと思うと同時に、安心感も感じているのです。保育園では大きくなったとはいっても、まだ最高で6年しか生きていないのですから。

保育士も、「このお子さんにはこう育ててほしい」と日々期待し、どうすればいいかと模索する毎日です。保育士同士は常に相談しながら保育ができますが、お母さん一人では判断に迷うこともあるでしょう。

どうぞ遠慮なく担当に声をかけて頂いて、お子さんへの大切な思いと成長を一緒に育てていけることを願っています。

(担当 藤井あづさ)